

英語でのコミュニケーションに対する生徒の意欲を高める指導の工夫 ～探求的課題を設定した協同学習を通して～

名護市立羽地中学校
教諭 宮國 貴史

第1章 本研究の目的と方法

1.1 問題の所在

学習指導要領の求める「生きる力」(思考力、判断力、表現力等)の育成や、グローバル社会で求められるコミュニケーション能力(文部科学省,2011)の育成など、現代日本の外国語科における課題は多くある。そして、それらを同時に追求できる授業づくりが現在求められている。しかし、外国語科は技能の訓練を多く伴う教科であることから思考の場面を作りにくいいため、技能訓練の場面と思考、判断、表現の場面の両者のバランスに課題を抱える教師が多いだろう。

また、従来の教師主導の「教え込む」授業では、学力低下はもちろん、生徒の自ら学ぶ意欲が育たず、長い間課題とされている。一方、その対局の「教えない」授業では、教えずに考えさせることで問題解決を目指しているが、時間がかかるため問題解決まで辿り着けずに授業が終わることが多く、これも失敗に終わった過去がある(市川,2008)。これからは肝心の「生徒の学び」に焦点をあて、生徒の学ぶ意欲を高めながら学力の向上を目指す授業づくりの研究を重ねていくべきではないかと考える。

1.2 目的

上記の問題の解決に少しでも寄与するために、外国語科において学び合いを生む協同学習を授業の中にデザインし、「学ばせる」指導の工夫をすることで、生徒に英語の楽しさを伝え、英語でのコミュニケーションに対する意欲を高めたい。そうすることで、学力の向上につなげることができると考え、本研究主題「英語でのコミュニケーションに対する生徒の意欲を高める指導の工夫」を設定した。また、「学ばせる」ための協同学習に必要な課題として、生徒同士が互いを補い合いながら答えを探し求め、探ることで課題の解決を目指せるような探求的課題が有効であると考え。よって、副題を「探求的課題を設定した協同学習を通して」とした。

1.3 方法

本研究は、先行研究調査、授業研究、結果の考察の3つを軸に進め、「共同生成的なアクション・リサーチ(秋田,2005)」の方法を取った。

1.3.1 先行研究調査

主に「学びの共同体」、「協同学習」、「外国語科における生徒のコミュニケーションへの

意欲」に関する先行研究を調べ、現代の日本の外国語科の課題を明らかにし、その課題を解決するための方策を探った。

1.3.2 授業研究

授業研究は、副題にある「探求的課題を設定した協同学習」を盛り込んだ指導案作成、授業実践、生徒からのリフレクション（授業中の生徒の様子、授業中に生徒が取り組んだワークシート、生徒が書いた授業の振り返り表）の分析・省察・改善の3つを軸に行った。

指導案作成は、主に新垣みゆき氏（名護市教育委員会指導主事）、村瀬公胤氏（一般社団法人麻布教育研究所所長・名護市学校教育特任アドバイザー）、神谷哲也氏（名護市立羽地小学校教諭）に指導・助言を頂きながら検討会を重ね、進めた。

授業実践においても、できるだけ多くの方に観てもらい、その後の反省会で指導・助言を頂きながら、改善につなげ、実践を重ねた。

生徒からのリフレクションの分析・省察・改善では、授業中の生徒の様子の観察、生徒のワークシートの省察・改善、生徒の授業の振り返り表の分析・省察を行い、次の授業実践への改善につなげた。

授業の振り返り表（毎授業の最後に記入）

review sheet	
class ___ No. _____ name _____	
In today's class,	はい almost a little no 活動名
1. 今日の授業は楽しかったですか。	4 - 3 - 2 - 1 " _____ "
2. 友だちや先生の話をしっかりと「聴く=listen」ことができましたか。	4-3-2-1
3. 分からないときに友だちにちゃんと「訊く=ask」ことができましたか。	4-3-2-1-0
4. 友だちに訊かれたときには優しく「助ける=help」ことができましたか。	4-3-2-1-0
5. 発見したことは何ですか。	
6. もっと知りたい、勉強したいと思ったことは何ですか。	

1.3.3 結果と考察

以下2つの結果から考察を行った。1つは、授業改善についての評価を得るために、授業実践を重ねた後に行った生徒へのアンケート（平成26年2月6日、2年3組にて実施）の結果。もう1つは、平成25年度沖縄県学力到達度調査（平成25年12月5日実施）を、授業実践を重ねた後の平成26年2月10日に再度実施し、その両方の結果。以上の2つを、分析・考察した。

生徒へのアンケート（平成 26 年 2 月 6 日、2 年 3 組にて実施）

Questionnaire

class ___ No. ___ name _____

1. 研究所に行く前の授業と行った後の授業では、どちらが好きですか？
それはなぜですか？（どう違いますか？）
2. 研究所に行った後の授業で、どの授業（活動）が面白かった・楽しかったですか？
3. 英語をもっと上手になりたい・学びたいと思うようになりましたか？ yes / no

第 2 章 授業研究

2.1 「探求的課題を設定した協同学習」を盛り込んだ指導案作成

指導案を作る際に、探求的課題を設定した協同学習を取り入れ、英語でのコミュニケーションに対する意欲が向上するよう工夫した。その際、阿原・玉木・西野（2003）を参考にした。また、それぞれの指導案の中で、探求的課題を設定した協同学習に充たる活動に「⊗」のマークを付け、授業の中でどの活動が探求的課題を設定した協同学習に充たる活動を分かりやすく示している。

本研究では、本校で扱われている教材「SUNSHINE ENGLISH COURSE 2」を基に作成に臨んだ。

2.2 授業実践

全 36 時間、3 単元（PROGRAM8~10）の他に発展・応用活動などの授業実践を行った。そして、そのほとんどを ALT や JTE とのチーム・ティーチングで行った。時数、日時、学級、内容を以下の表に示す。

全授業実践

時	実践日時	実践学級	実践内容
1	11 月 7 日	2 年 3 組	Challenge①英語で理科（Science Quiz）
2	11 月 11 日	2 年 1 組	
3	11 月 13 日	2 年 2 組	
4	11 月 14 日	2 年 3 組	My Project 5 将来の夢を語ろう
5	12 月 3 日	2 年 3 組	沖縄県学力到達度調査対策（並べ替え問題）
6		2 年 2 組	
7	12 月 4 日	2 年 1 組	
8	12 月 10 日	2 年 3 組	PROGRAM 8 section 1（内容理解）
9		2 年 2 組	
10		2 年 1 組	
11	12 月 11 日	2 年 3 組	PROGRAM 8 section 2（内容理解）
12		2 年 2 組	

13	12月13日	2年3組	PROGRAM 8 section 3 (内容理解)
14		2年1組	
15	12月20日	2年3組	PROGRAM 9 section 1 (文法導入)
16	1月9日	2年3組	PROGRAM 9 section 2 (内容理解)
17	1月15日	2年3組	PROGRAM 9 まとめ
18		2年2組	
19	1月16日	2年3組	本田圭祐選手の入団会見 (listening)
20	1月17日	2年3組	POWER-UP Speaking 5 買い物③ (シャツを買う)
21	1月20日	2年3組	Challenge②英語で数学 (Math Quiz)
22	1月21日	2年3組	PROGRAM 10 section 1 (文法導入)
23	1月22日	2年2組	
24		2年1組	
25		2年3組	
26	1月23日	2年3組	PROGRAM 10 section 1 (内容理解)
27		2年2組	
28	1月24日	2年1組	
29		2年3組	
30	1月27日	2年3組	PROGRAM 10 section 2 (文法導入)
31		2年2組	
32	1月28日	2年3組	PROGRAM 10 section 2 (内容理解)
33		2年1組	
34		2年2組	PROGRAM 10 section 3 (内容理解)
35	1月29日	2年1組	
36		2年3組	

全実践の中で、ここでは第22時、第26時、第36時の3つを挙げる。

2.2.1 実践と省察（文法導入：比較級“more~ than …”，最上級“the most ~…”）

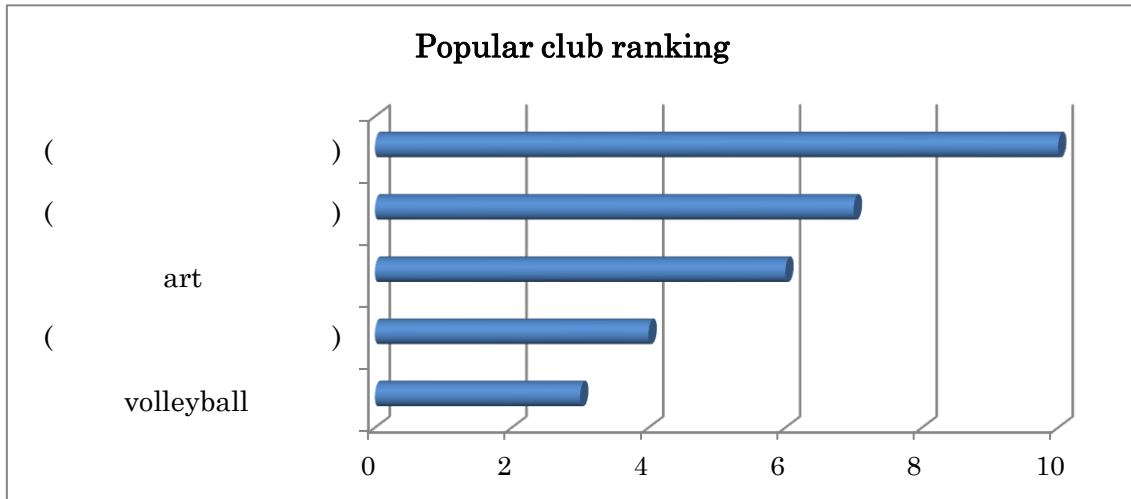
【指導案】

授業デザインシート		
平成 26 年 1 月 21 日（火）1 校時 授業者：宮國貴史、David、比嘉さゆり		
学級	2 年 3 組	男子 18 名 女子 17 名 計 35 名
単元	PROGRAM 10 So Many Countries, So Many Customs.	
目標	比較の文（“more ~ than …”と“the most ~”）を聞いたり、話したりする。	
評価 規準	“more ~ than …”と“the most ~”の文を聞いたり、話したりすることができる。 （外国語理解の能力、外国語表現の能力）	
	授業の流れ	主な発問
	1. greeting and view (class) 挨拶と見通し 2. small quiz (group) スモール・クイズ 3. guessing (group) ㊦ 推測 ①popular club ranking 人気部活動ランキング ②difficult subject ranking of Mr. M 宮國先生の難しい教科ランキング 4. find the rule (class) ㊦ ルール探し 5. tell your idea (group) 考えを伝えよう 6. review (group) 振り返り	1. Date, day, and the weather. Let's greet in your group! 2. Quizzes for reviewing and warming up. 3. Fill out the blanks to make the rankings. 4. What could you find from the sentences? Write down your ideas. 5. Tell your idea for ~. 6. What did you find today? Fill out the review sheet.

3. **Guessing** (推測) ④でのワークシート

Complete the ranking!!

1.



教師のスキript

Soccer is more popular than volleyball. Art is more popular than soccer. Tennis is more popular than art. Baseball is the most popular.

2.

Difficult subject ranking of Mr. Miyaguni's

	subject
1 difficult	
2 ↑	
3 ↓	
4 ↓	
5 easy	English

教師のスキript

English is the easiest. Japanese is more difficult than English. Social studies is more difficult than Japanese. Science is more difficult than Social studies. Math is the most difficult.

4. find the rule (ルール探し) ④でのワークシート

Tennis is	more	popular	than	art.	テニスは美術より人気がある。
Science is	more	difficult	than	social studies.	理科は社会より難しい。
Mr. Azama is	more	handsome	than	Mr. Miyaguni.	安座間先生は宮國先生よりハンサムだ。
Ms. Chikako is	more	beautiful	than	Ms. Sayuri.	千賀子先生はさゆり先生より美しい。
Mechaike is	more	interesting	than	rinkan.	めっちゃ竹はリカーンより面白い。

Haruna is	the most	popular	girl	in 2-3.	春奈は2-3で一番人気がある女の子です。
Math is	the most	difficult	subject	for me.	数学は私にとって一番難しい教科です。
Mr. Azama is	the most	handsome	teacher	in this school.	安座間先生はこの学校で一番ハンサムな先生です。
Ms. Chikako is	the most	beautiful	teacher	in this school.	千賀子先生はこの学校で一番きれいな先生です。
Shabekuri seven is	the most	interesting	TV program	for Tatsuki.	しゃべくり7は竜樹にとって一番面白い番組です。

Write down what you found. (見つけたこと、気づいたことを書きましょう。)

よく使われている英語	よく使われている日本語
見つけたこと、気づいたこと、何でも	

Question

<p>How do you use, <u>"~er than", "the ~est"</u> and <u>"more ~ than", "the most ~"</u>?</p> <p>(<u>"~er than", "the ~est"</u>バージョンと<u>"more ~ than", "the most ~"</u>バージョン どう使い分ける?) 今まで学んできたものと何が違う?</p>
--

【省察】

振返り表の結果（はい＝4、まあまあ＝3、あまり＝2、いいえ＝1、該当なし＝0）

	4 (%)	3 (%)	2 (%)	1 (%)	0 (%)
1. 今日の授業は楽しかったですか。	41.9	51.6	6.5	0.0	
2. 友だちや先生の話をしっかり「聴く＝listen」ことができましたか。	56.3	40.6	3.1	0.0	
3. 分からないときに友だちにちゃんと「訊く＝ask」ことができましたか。	43.8	31.3	12.5	3.1	9.4
4. 友だちに訊かれたときには優しく「助ける＝help」ことができましたか。	34.4	34.4	6.5	3.1	21.9

5. 発見したことは何ですか。

- ・ more と most の使い分け。
- ・ 先生の苦手な教科。
- ・ 最上級を使っているランキングを聞いた。small quiz の時、先生達の質問が聞き取れた！
- ・ しっかり英語を聞かないといけないということ。

6. もっと知りたい、勉強したいと思ったことは何ですか。

- ・ more と most を使えるようにしたい。
- ・ いろんなランキングを作る。
- ・ まず、聴くことから頑張る！
- ・ 聞くテストをもっと勉強したい。少し難しかった。
- ・ ちょっとした会話をできるようになりたい！
- ・ 外国でもっと活かせる English。
- ・ 外国の人の言葉でも聴きとれるようになりたいし、単語をもっと覚えて英文が日本語に見えるようになりたい。

一番楽しかった活動

“guessing”^⑩11人、“small quiz”8人、無回答13人

総じて授業は楽しかったようである。多くの生徒が「一番楽しかった活動」に“guessing”を挙げており、探求的課題が英語でのコミュニケーションに対する生徒の意欲に効果があったと考える。このことは、項目 5,6 の記述からも察することができる。しかし、項目 3,4 の結果において、生徒の中に訊き合い、助け合う必然性を生むことができなかつたと考える。同時に、聴き合う関係をまだ構築できておらず、生徒がそのような活動になれていないという事実もあると考える。

2.2.2 実践と省察（内容理解：PROGRAM10 section 1）

【指導案】

授業デザインシート		
平成 26 年 1 月 23 日（木）1 校時 授業者：宮國貴史、David、比嘉さゆり		
学級	2 年 3 組	男子 18 名 女子 17 名 計 35 名
単元	PROGRAM 10 So Many Countries, So Many Customs.	
目標	本文の内容を読み、言語や文化の違いを知る。	
評価 規準	本文の内容を読み、言語や文化の違いを知ることができる。 (外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解)	
	授業の流れ	主な発問
	1. greeting and view (class) 挨拶と見通し 2. small quiz (group) スモール・クイズ 3. new words (class) 新出語句 4. reading content (group) ㊦ 内容読取り 5. Q and A (group) ㊦ キュー・アンド・エー 6. review (group) 振返り	1. Date, day, and the weather. Let's greet in your group! 2. Let's enjoy the small quiz! 3. Guess how to pronounce, the meaning, etc. 4. Choose your part. Move to your part group. I'll give you three minutes. 5. I'll give you five questions. I'll give you thinking time after each question, so talk with your friends at the time. I'll say each question only two times. So listen carefully. 6. What did you find today? Fill out the review sheet.

4. **reading content** (内容読取り) ⑨でのワークシート (グループに1枚)
1人1枚小さい紙切れに日本語を書いてきて、それをこのワークシートに貼り、共有する。

sharing sheet

your group members' name

part 1

attach here

part 2

attach here

part 3

attach here

part 4

attach here

5. Q and A (キュー・アンド・エー) ④でのワークシート

Questions and Answers ^^

Write down the answers.

1.	_____
2.	_____
3.	_____
4.	_____
5.	_____

5. Q and A (キュー・アンド・エー) ④での質問

1. Was the homestay more interesting than traveling to Momoko?
2. What did Momoko's host mother say?
3. Did Momoko get any food?
4. Was the host family kind to Momoko?
5. What is the punch line (= culture difference) of this story? Why didn't Momoko open the fridge and get any food?

【省察】

振り返り表の結果（はい＝4、まあまあ＝3、あまり＝2、いいえ＝1、該当なし＝0）

	4 (%)	3 (%)	2 (%)	1 (%)	0 (%)
1. 今日の授業は楽しかったですか。	43.8	50.0	6.3	0.0	
2. 友だちや先生の話をしかりと「聴く＝listen」ことができましたか。	67.7	29.0	3.2	0.0	
3. 分からないときに友だちにちゃんと「訊く＝ask」ことができましたか。	42.0	29.0	13.0	0.0	16.1
4. 友だちに訊かれたときには優しく「助ける＝help」ことができましたか。	35.5	32.3	6.5	6.5	19.4

5. 発見したことは何ですか。

- ・新しく出された単語で、それが日本の歌詞やテレビで使われているものがあって、そのままでも理解できて、日本でも通じるということが分かった。
- ・ help yourself について分かった。
- ・ How にもいろんな使い方があるということ。
- ・ 日本語に訳すことができた。

6. もっと知りたい、勉強したいと思ったことは何ですか。

- ・ もっとたくさん単語を覚えていきたい。
- ・ 驚いたことに、英文を訳すもので少しだけ英語が理解できたので、その力をもっと付けたい！ Good!
- ・ 英文を日本語にするのをもっと勉強したい。
- ・ 桃子のホームステイについて。
- ・ ホームステイしたい！

一番楽しかった活動

“Q and A”^⑩10人、“small quiz”8人、“new words”3人、無回答11人

これまでの実践同様、多くの生徒が「授業は楽しかった」と答えている。そして、多くの生徒が「一番楽しかった活動」を“Q and A”と挙げていることと項目5,6の記述から、英語でのコミュニケーションに対する生徒の意欲の向上に探求的課題が有効であったと考える。また、授業実践を重ねるごとに記述の内容も全体的に中身のある意味深いものになっている。

しかし、これまで同様、協同学習において「訊く、助ける」ことがあまり生み出せていないということも項目3,4から分かる。粘り強く「聴き合う関係」づくりを続けていき、生徒にも早く慣れてもらい、その楽しさ、素晴らしさを気付かせたい。

2.2.3 実践と省察（内容理解：PROGRAM10 section 3）

【指導案】

授業デザインシート	
平成 26 年 1 月 29 日（水）5 校時 授業者：宮國貴史、David、比嘉さゆり	
学級	2年3組 男子18名 女子17名 計35名
単元	PROGRAM 10 So Many Countries, So Many Customs.
目標	本文の内容を読み、言語や文化の違いを知る。
評価 規準	本文の内容を読み、言語や文化の違いを知ることができる。 (外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解)
授業の流れ	主な発問
1. view (class) 見通し	1. Date, day, and the weather. Let's greet in your group! Let's find culture differences!
2. small quiz (group) スモール・クイズ	2. Let's enjoy the small quiz!
3. activity (group) 活動 ①guessing 場面推測 ②reading ③ 内容読取り	3. ①Guess the scene. Find the difference. Tell the difference. ②Read the content. Listen to the questions. Find and write down the answers.
4. review (group) 振り返り	4. What did you find today? Fill out the review sheet.

3. activity ②reading (内容読取り) ④でのワークシート

Let's find the differences !!

Part 1

Mike had a stomachache and asked the doctor in English, "Can I eat?"
The doctor said, "Kekkodesu." It meant "No" to Mike. So he didn't eat
all day. "Kekkodesu" was more difficult than "Ii desu" to Mike.

Q and A

What does "Kekkodesu" mean?
It means _____ to Mike.
It means _____ to the doctor.

Part 2

Momoko went to a party in the U.S. Her American friend asked
"Would you like some tea?" Momoko liked tea the best. So she said, "Oh,
I'm sorry." She didn't get any tea.

Q and A

1. Did Momoko want tea?

2. ① Did Momoko get tea?

② Why? (You can write in Japanese.)

3. activity ②reading (内容読取り) ④を終わったグループに配布したワークシート④
(1グループに1枚)

Special question!!

What does "domo" mean?
Write down three meanings in English.

1. _____
2. _____
3. _____

【省察】

振り返り表の結果（はい＝4、まあまあ＝3、あまり＝2、いいえ＝1、該当なし＝0）

	4 (%)	3 (%)	2 (%)	1 (%)	0 (%)
1. 今日の授業は楽しかったですか。	56.7	40.0	3.3	0.0	
2. 友だちや先生の話をしつかりと「聴く＝listen」ことができましたか。	77.4	22.6	0.0	0.0	
3. 分からないときに友だちにちゃんと「訊く＝ask」ことができましたか。	61.3	32.3	0.0	0.0	6.5
4. 友だちに訊かれたときには優しく「助ける＝help」ことができましたか。	45.2	35.5	6.5	6.5	6.5

5. 発見したことは何ですか。

- ・日本は首を縦に振ると「はい」という意味だけど、スリランカは横に振ると「はい」という意味だと分かった。日本とアメリカの合図やジェスチャーが違うということ。
- ・“Oh, I'm sorry.”の意味の受け取り方や使い方。
- ・人によって言葉の解釈の違いがあるということ。
- ・domoの意味が3つあり、よく考えたら Japaneseの方が difficult!!
- ・グループでの話し合いが楽しいということ。グループでの助け合いの良さ。

6. もっと知りたい、勉強したいと思ったことは何ですか。

- ・他の国のいろいろなルールや文化、日本とは真逆なことや珍しいことなど。
- ・日本語でも英語でも人によって解釈の意味が変化するなら、そういうものが他にもあるのか調べてみたい。それに、その国ならではの文化も知りたい。
- ・domoの答えが知りたい。

一番楽しかった活動

“Q and A”^⑩ 12人、“culture game”3人、“small quiz”3人、無回答13人

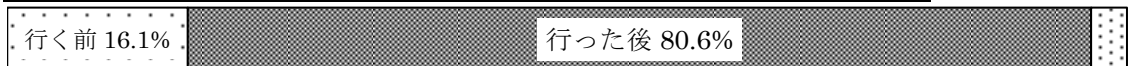
これまでの実践同様、ほとんどの生徒が「授業は楽しかった」と答えている。ここでも、「一番楽しかった活動」に探求的課題を設定した“Q and A”が多く挙がっており、探求的課題の効果が見られる。このことは、項目5,6の記述からもよく分かる。さらに、この実践において、これまでとは違う大きな変容が見られたのは項目3,4の示す協同学習における生徒の関係である。ねらいとしていた、生徒同士が互いを補い合うような活動になっていたことが分かり、これは、項目5の「グループでの助け合いの良さ」という記述からも分かる。この実践が公開授業であったため、生徒間に良い緊張感があったことも1つの要因ではあると思うが、少しずつ生徒に聴き合う関係ができてきて、協同学習の楽しさ、素晴らしさに気付いてきたということも事実であろう。

第3章 結果と考察

3.1 生徒アンケートの結果と考察

授業改善についての評価を得るために、授業実践と授業改善を重ねる前と後で生徒にどのような変容があったかを見るための生徒アンケート（1.3.3 参照）を、授業実践を重ねた後（平成26年2月6日）、2年3組にて実施した。

1. 研究所に行く前の授業と行った後の授業では、どちらが好きですか？



どちらも 3.2%

それはなぜですか？（どう違いますか？）

〈行く前の授業〉

- ・分かるまでちゃんと教えてくれていたから。
- ・日本語あまり使わなくなったから聞きとれなくて、何を言っているのか分からないから。
- ・行く前の授業の方がやりやすい。行った後の授業ではなんか難しくなっているから。

〈行った後の授業〉

- ・問題が難しくなったけど、その分英語の理解力が上がったから。
- ・授業終わりに充実感があるから。
- ・英語でしゃべるのが増えて、少しは英語分かるようになったから!!
- ・教え方がうまくなっていて、分からないところを分かりやすくしているから。授業が分りやすくなったから。授業が楽しくなったから。
- ・テストの点数が上がったから。
- ・何をどんな順番で行うという授業の構成が見られ、やりやすいから。それに、プリントやテレビなど多くの物を活用していて、楽しみながら授業に取り組めたから。
- ・PCなどを使って game などの活動をしたので楽しかったし、グループ活動が多かったのでみんなで協力し合えたから。
- ・やったことのない授業（challenge① 英語で理科）もあったから。研究授業などのいい体験ができるから。
- ・ICTの活用で楽しいから（5人）。small quizが楽しいから（4人）。ゲームが楽しいから（4人）。グループ活動が楽しいから（2人）。

以上に示す通り、多くの生徒が「行った後」の授業が好きだと答えている。その理由として、記述からは大きく分けて3つの理由があると読み取れる。1つ目は、英語の使用量が増えたことや、課題が難しくなっていること。2つ目はICTの積極的な活用。3つ目は、探求的課題を設定した協同学習である。1つ目の理由は興味深く、レベルの高い難しい課題に好意的である生徒が少なくないということが分かり、「ジャンプの課題」の重要性がより明確になったと考える。このことは「問題が難しくなったけど、その分英語の理解力が上がったから。授業終わりに充実感があるから。英語でしゃべるのが増えて、少しは英語分かるようになったから!!」などの記述から分かる。2つ目の理由は言うまでもなく、ICTの活

用が生徒の興味・関心を惹き付け、学習意欲に繋がるということを示している。3つ目の理由は1つ目の理由にある課題の質とも関連があるが、「グループ活動が多かったのでみんな協力し合えたから。グループ活動が楽しいから。」などの記述から分かる。

以上、約 8 割の生徒が「行った後」の授業が好きと答えていることとその理由の記述から、本研究における授業実践・授業改善が生徒の関心・意欲・態度の向上に効果があったと言える。

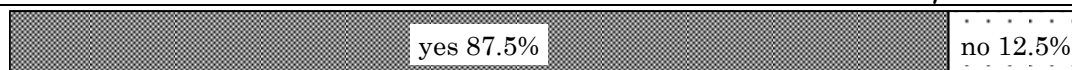
一方で、「行く前」の授業の方が好きと答えた生徒の中には、英語の使用量が増えたことやレベルの高い難しい課題に困難を抱え、授業で窮屈を感じている生徒がいることが分かった。これは本研究での検証はできなかったが、今後このような生徒への支援の方法を研究し、明らかにしていかなければならない重要な課題の1つであることは間違いない。

2. 研究所に行った後の授業で、どの授業（活動）が面白かった・楽しかったですか？

順位	授業（活動）名	数(%)	順位	授業（活動）名	数(%)
1	small quiz (スモール・クイズ)	20.5	6	reading content (内容読取り)	4.5
2	英語で理科	18.2		グループ活動	4.5
3	ICT を活用した活動	13.6	7	全部	2.3
4	ゲーム	9.1		Q and A (キュー・アンド・エー)	2.3
5	本田圭祐選手の入団会見	6.8		task (課題)	2.3
	買い物	6.8		研究授業	2.3
6	文化の違い	4.5		greeting (挨拶)	2.3

多くの授業実践を振り返ってのアンケートであったため、毎時行っていた「small quiz (スモール・クイズ)」や理科室で実験を行ったという印象深い授業「英語で理科」が上位にくる結果となった。また、small quiz (スモール・クイズ) では ICT を積極的に活用していたため、3位の「ICT を活用した活動」とも多少関連があると思われる。5位には、実物を使った教材での授業が 2 つ挙がっており、改めて教材や課題の質の重要性が確認できる結果となった。

3. 英語をもっと上手になりたい・学びたいと思うようになりましたか？ yes / no



グラフで示す通り、約 9 割の生徒の英語でのコミュニケーションに対する意欲は高まっている。その一方で、約 1 割の生徒はそうではなく、今後は、そのような生徒に対してどのような支援の方法があるのかを検証し、明らかにしていかなければならない。本研究ではそれを検証できなかったが、今後研究を深め、そのような生徒への支援の方法を明らかにしていく必要がある。

3.2 平成 25 年度沖縄県学力到達度調査の結果と考察

平成 25 年度沖縄県学力到達度調査（平成 25 年 12 月 5 日実施）を、授業実践を重ねた後の平成 26 年 2 月 10 日にも再度実施し、両者の結果を比較した。その結果、全 3 学級において、正答率が 0.3~2.1%の上昇があった。

ここでは、正答率の上がった生徒と上がらなかった生徒の 2 つに分け、着目し、分析を行った。その結果、正答率の上がった生徒の多くが、探求的課題や協同学習に好意的であるということが各授業の振り返り表（2.2.1~2.2.3 参照）の回答から分かった。彼らの多くが、各授業の振り返り表において、「一番楽しかった活動」に探求的課題を設定した活動（協同学習）を挙げていたり、探求的課題や協同学習に関して好意的な回答をしていた。逆に、正答率の上がらなかった生徒の多くは、上がった生徒に比べ探求的課題や協同学習に興味・関心がないことが分かった。彼らの多くは、各授業の振り返り表において、「一番楽しかった活動」を small quiz（スモール・クイズ）などの探求的課題ではない協同の要素も少ない活動を挙げていた。その相関関係を以下の表で示す。

正答率の増減と探求的課題や協同学習への興味・関心の相関関係

	左記の生徒の内、探求的課題や協同学習に好意的な回答が見られた率の平均値
正答率の上がった生徒	79.1%
正答率の上がらなかった生徒	49.1%

以上のことから、探求的課題を設定した協同学習が学力の向上にも一定の効果があるという示唆が得られた。

3.3 総合考察

探求的課題を設定した協同学習を通して「英語でのコミュニケーションに対する生徒の意欲を高める指導の工夫」を主題として研究を進めた本研究であるが、ある一定の成果と課題が得られた。

主な成果は 2 つある。1 つは、本研究での授業実践を通して約 9 割の生徒が「英語をもっと上手になりたい・学びたい」と思うようになったこと（3.1 参照）。もう 1 つは、探求的課題を設定した協同学習が学力向上に効果があるという示唆を得たことである。そして、その要因のいくつかを示せたとも考えている。それらの主な要因を以下 2 つにまとめる。

1 つは、英語でのコミュニケーションに対する生徒の意欲を高めるのに、探求的課題を設定した協同学習が有効であるということである。本研究での授業実践を通して、多くの生徒が「一番楽しかった活動」に探求的課題を設定した活動（協同学習）を挙げていることが、各授業実践での生徒の振り返り表の結果（2.2.1~2.2.3 参照）から明らかになった。これは、2.2 での 3 つの授業実践以外の実践においてもそうであった。このことは、今後の外国語科での授業の方向性を示す 1 つの指標となるものだと考える。もう 1 つは、英語でのコミュニケーションに対する生徒の意欲を高めるのに、難しい課題が有効であるということである。

る (3.1 参照)。これにより、佐藤学のいう「ジャンプの課題」の重要性が再確認できた。

一方、重大な課題が 2 つある。1 つは、難しい課題に困難を抱え授業で窮屈さを感じている生徒や、英語でのコミュニケーションに対する意欲の下がった生徒への支援の方法に関する研究と開発である (3.1 参照)。もう 1 つは、探求的課題や協同学習により、英語でのコミュニケーションに対する生徒の意欲を高め、学力向上を目指すならば、探求的課題や協同学習に興味・関心の低い生徒にはどのような支援の方法があるのかを検証・研究・開発していくことである。この課題に関しては、授業におけるグループ内若しくは学級内での人間関係に左右されることが多分にあると推測する。生徒の様子を観察や各授業の生徒の振り返り表 (主に項目 3,4) をグループごとに分析すると、そのグループ内において「聴き合う関係」が構築されているか否かが重要な鍵となっているようである。つまり、気兼ねなく互いに学び合っているかどうか探求的課題や協同学習に対する興味・関心と関連していると考えられる。このことについては本研究では十分に検証できなかったが、今後着目し、検証する価値のある課題であるだろう。

引用文献

- 秋田喜代美 (2005). 学校でのアクション・リサーチ—学校との協働生成的研究—。秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤 学 (編) 教育研究のメソドロジー—学校参加型マインドへのいざない— 東京大学出版会 pp. 163-189.
- 阿原成光・玉木由美・西野孝子(2003).英語の授業づくりアイデアブック②—中学 2 年 導入と展開— 三友社.
- 市川伸一 (2008). 「教えて考えさせる授業」を創る 図書文化社.
- 稲葉義治 (2003). 信頼される学校づくり。佐藤雅彰・佐藤 学 (編) 公立中学校の挑戦—授業を変える学校が変わる—富士市立岳陽中学校の実践 ぎょうせい pp. 74-78.
- 今井裕之 (2011). 英語の授業にもっと協同学習を. *TEACHING ENGLISH NOW* (三省堂) , 20, 2-5.
- 国立教育政策研究所 (2011). 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校外国語】 教育出版.
- 佐藤 学 (2006). 学校の挑戦—学びの共同体を創る— 小学館.
- 佐藤 学 (2012). 学校を改革する—学びの共同体の構想と実践— 岩波書店.
- 杉江修治 (2011). 協同学習入門—基本の理解と 51 の工夫— ナカニシヤ出版.
- 関田一彦・安永 悟 (2005). 協同学習の定義と関連用語の整理. *協同と教育* (日本協同教育学会) , 1, 10-16.
- 総務省統計局 (2014). 人口推計 (<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/new.htm>) (2013 年 9 月時点、2014 年 2 月 20 日公表) .
- 中央教育審議会 (2007). 初等中等分科会 (第 54 回) 教育課程部会 (第 4 期第 8 回) 合同会議議事録・配付資料 [資料 3-2] 5. 学習指導要領改訂の基本的な考え方.
- 根岸恒雄 (2012). 協同学習で英語授業の質をどう高めるか—原因・対応策と提案— 埼玉英

語サークル第9回講演会.

町田淳子 (2012). 第8章 英語科協同学習 Q & A (Q6). 江利川春雄 (編) 協同学習を取り入れた英語授業のすすめ 大修館書店 pp. 211-212.

文部科学省(2008a). 新学習指導要領の基本的な考え方

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea) .

文部科学省 (2008b). 中学校学習指導要領解説 外国語編.

文部科学省 (2011). 国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策.

謝辞

2013年10月から2014年3月までの半年間、名護市立教育研究所にて、教師としての研究と修養に時間を費やせたことに幸せを感じるとともに感謝の気持ちでいっぱいである。現場である名護市立羽地中学校から快く送り出し、研究における授業実践に協力して下さった島袋校長、そして、温かく迎え入れて下さった安里所長はじめ教育研究所の皆様には大変お世話になった。特に、この半年を通して、共に悩み、考え、指導・助言を下さった村瀬学校教育特任アドバイザー、新垣指導主事、そして同じ研究員である名護市立羽地小学校の神谷教諭には、感謝の気持ちが尽きない。研究内容にとどまらず、教師としての姿勢・態度を彼らの姿から強烈に感じ、学び取ることができた。このことは、今後の教師人生において大きな糧となることを確信している。感謝の意を表したい。

また、このように本書にて、私の研究を報告する機会を与えて下さった島袋国頭教育事務所指導主事にも感謝の意を表したい。ありがとうございました。